

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

『当院における疾患別リハビリテーションについて』

理学療法士 合田 恒子

精神科の治療において、以前は精神科作業療法が主流でしたが、個別対応困難な場合や、長期入院患者様の身体的な合併症への対応が課題でした。この状況に対し、2020年度の診療報酬改定で、精神科病院でも疾患別リハビリテーションが算定できるようになりました。

疾患別リハビリテーションは、特定の病気や病態ごとに区分されたリハビリテーションのことであり、その疾患に起因する心身機能の低下や活動制限を改善し、生活機能の維持・向上を目的として行われます。脳卒中や脳出血、硬膜下血腫などの脳血管疾患による脳血管リハビリテーション、骨折や関節炎、脊椎疾患などの運動器疾患による運動器リハビリテーション、安静臥床に伴う活動量低下、全身機能低下によって発症する廃用症候群のリハビリテーションがあり、その他には認知症リハビリテーション等に分けられています。

当院でも5か年計画として身体リハビリテーションプロジェクトチームを発足し、算定に向けて新たに理学療法士1名採用し、リハビリ室を設置しました。リハビリ室には、平行棒や階段、肋木、訓練用ベッド、また、姿勢矯正鏡などが設置され、今までできなかつた専門的なリハビリテーションができるようになりました。現在理学療法士2名でR7年12月から疾患別リハビリテーション等を実施しています。さらにR8年2月には新たに理学療法士1名と、作業療法士1名を迎え入れ、順次認知症リハビリテーション、運動器リハビリテーションが算定できるように体制を整えるリハビリテーションの拡充を図りたいと考えています。

当院で長期入院している患者様も転倒による骨折や脳梗塞、肺炎等の整形的、外科的、内科的などの身体疾患を合併している方も多く、身体リハビリテーションを必要と

ている方がいます。その方の疾患に合わせた身体リハビリテーションを提供することで、以前から行っていた精神科作業療法による認知、精神面とあわせて身体的なサポートを行い、少しでも患者様が自分らしく充実した毎日が送れるようにしていきたいと思います。

12月から算定をはじめたばかりですが、試行錯誤しながら少しでも患者様、病院に貢献できるように全力で取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。





『訪問看護の取り組み』

訪問看護室 看護師 楠 佳志子

当院の精神科訪問看護では、看護師や精神保健福祉士、作業療法士が自宅に訪問し、心の健康に問題を抱える方が、地域社会の中で安心して暮らせるように、症状や困りごとへの援助を行っています。

では具体的には何をするのか?—まず第1に通院治療や服薬が継続できるように支援します。特に服薬は自宅でご自身が行わなければならないため、忘れずに正しく服薬できる方法を一緒に考えたり、薬を管理しやすいようにセットする援助をします。第2に睡眠や食事、清潔、金銭管理や人間(家族)関係、1日の過ごし方など生活全体の話を聞きして、困りごとがあれば相談を受け必要時には適切な関係機関と連携し、問題解決に向けて支援します。病状が安定してこそ生活も安定し、さらには外出や趣味活動、社会参加へとつながります。医療と生活、そして社会をつなぐ役割を精神科訪問看護は担っています。

当院に訪問看護室が設置されたのは 2007(H19)年、当時の利用件数の平均は95件/月でしたが、

2025年12月現在は、登録者数70名、訪問件数は約200件/月と増加しています。利用者様の平均年齢は56.4歳ですが、生活習慣病、呼吸器、整形外科、感覚器等の通院治療が必要な身体疾患がある方(自己判断で通院をしていない方を含む)は7割近くを占めています。身体と精神の双方が影響し合うことも多いため、先入観を持たず客観的に観察、援助することが大切であると感じています。実際に訪問看護師が介入して身体疾患の通院に繋がり、治療することで精神面が安定した方もおられます。

利用者様には慣れ親しんだ生活の場で「そう言えばこんなことあって」とか「こんなこと相談してもいいかな?」など、些細なことでも気軽に話していただき、末永くその人らしい生活ができるお手伝いをしたいと思っています。



三船病院医師からのメッセージ…



『精神科医療と Artificial Intelligence(AI)について』



精神科医師 三木 洋介

近年、AI技術の発展は医療領域にも急速に浸透しつつあり、精神科もその例外ではありません。とりわけ、自然言語処理や画像解析の進歩により患者さんの症状をより客観的に把握したり、日常生活での変化を早期に察知したりすることが可能になりつつあります。AIは医師を置き換わる存在ではなく、診療の質と安全性を高めるための「補助道具」として活用されるべきだと考えています。

例えば、診察時に患者さんが表現できなかった気分の揺れや睡眠の変化を、日々の記録やデジタルデータからAIが分析し、医師に示してくれる診療がすでに始まっています。

また、カウンセリングの場面でも、会話の内容や速度、表情の変化など多面的な情報からストレスの兆候を早期に検出する技術が開発されています。こうしたAIの働きは、患者さんが自身の状態を理解しやすくなるだけでなく、医師が見落としがちな変化に気づく助けにもなります。

一方で、AIには限界があります。患者さんが抱える苦しみの背景には、人生の物語、人間関係、価値観、社会的状況など数値化できない文脈が存在します。AIは膨大なデータから傾向を示すことはできますが、その人ならではの体験や心の動きに寄り添うには依然として人間の医師の役目が欠かせません。むしろAIが広がるからこそ、医師はこれまで以上に「人の心を理解する姿勢」を大切にする必要があります。

AI時代の精神科医療は、人間とAIの役割を上手に組み合わせることでより個別的で安全な支援が可能になるとを考えています。データから読み取る客観性と人間が寄り添う温かさ。その両方があって初めて患者さんの回復に寄与する医療が実現していくのではないのでしょうか。

【三愛会 コミュニティケアセンター】



【地域連携推進会議について】

三愛会共同生活援助事業所管理者 大路 健

令和4年6月の「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて～社会保障審議会 障害者部会報告書～」において、「居住や生活の場であり、運営が閉鎖的になるおそれのあるサービス類型については、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることが、事業運営の透明性を高め、一定の質の確保につながるものと考えられ、介護分野の運営推進会議を参考とした仕組みを導入することが有効と考えられる」との指摘がなされました。

また、令和4年12月に、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律が公布され、この改正では、本人の希望に応じて、施設や病院からの地域移行、その人らしい居宅生活に向けた支援の充実が改正内容に盛り込まれています。

会議の構成員は、①利用者②利用者家族③地域の関係者④福祉に知見のある人⑤経営に知見のある人⑥施設等所在地の市町担当者等となっており、その中で、①利用者

②利用者家族、③地域の関係者は必ず選出することとなっています。

居住系サービスである共同生活援助において、各事業所で地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」を開催すること及び会議の構成員が事業所を見学する機会を設けることが義務付けられました（令和6年度は努力義務、令和7年度以降は義務）。

三愛会共同生活援助事業所では、この地域連携推進会議を、開催しなければいけない義務として捉えるのではなく、地域連携推進会議の目的である「利用者と地域との関係づくり」、「地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進」、「施設等やサービスの透明性・質の確保」、「利用者の権利擁護」を意識しながら、より良いサービスの提供や利用者の「地域での暮らし」の推進に繋がるよう、自然体でこぢんまりと取り組めればと考えています。



デイケア・デイナイトケア

『こんなことやってます』



今回はデイケア室で実施した特色あるプログラムをいくつか紹介させていただきます。

★『料理教室』…簡単調理で季節を意識したどら焼き【さつまいものホイップ入り】を作りました。

園芸活動でとれたサツマイモを使い自然な甘みで美味しいと頂きました。調理時は和気あいあいと楽しい雰囲気で、食べるだけでなく料理に必要な栄養知識もしっかりと学びました。

★『運動会』…2チームに分かれて、玉入れ、綱引き、借り物競争を行いました。

雰囲気が大盛り上がり熱気はムンムン、チーム戦ということもあり、白熱した『絶対に負けられない戦い』になりました。参加した利用者からは『今日はいろいろなゲームが出来ていい運動になりました。』『楽しかった。小学生の時の運動会を思い出しました…』等、適度な運動とストレス発散になりました。

参考イラスト・写真

★『クリスマス会』…クリスマスの雰囲気を味わってもらえるようなゲーム、景品くじ、カラオケ大会等、参加者全員が楽しめるような催しを行いました。皆さん笑顔でつながり、交流を深めることができました。

今後も利用者の『尊厳』を守りながら、活動等を通して『心の絆』を深め、よりよい支援を展開していきたいです。



クリスマスを意識して…
どら焼きの上に『ろうそく』
を立てました。



借り物競争…難解クイズもチ
ームワークで…
『謎は解けた！夜間はヤカ
ン！』



三愛会 トピックス



《編集後記》

新しい年が始まりましたが、昨年は例年ない猛暑や令和の米騒動などいろいろなことがありました。今年は平穏無事な年でありますよう願うばかりです。

本年も当法人は、患者様をはじめ、地域の皆様に親しまれる

病院、施設であるよう職員一丸となって尽力してまいりますので本年もよろしくお願いいたします。

(三船病院医療相談室MH SW)